学校だより
令和5年度　1月号
なつのくも
第173号（R6．1．9）
練馬区立光が丘夏の雲小学校
本校ホームページ新QRコードです。スマホなどからも閲覧できます。ご活用ください。

協働の大切さ…

校長　宮林　伸之

令和６年がスタートいたしました。昨年は、本校の教育活動にご理解、ご支援を賜りましてありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は、辰年です。
たつ（竜、龍）は十二支の中で唯一空想上の生き物で、権力や隆盛の象徴であることから、出世や権力に大きく関わる年と言われています。
ことわざに「竜の水を得る如し」とあります。これは、強いものが一層勢いを得ることです。竜が水を得て昇天するように、強いものがさらに強くなるという意味です。また、「竜頭蛇尾」ということわざもあります。始めは勢いが良いが、終わりは振るわないことを指します。頭は竜のように立派なのに、尻尾は蛇のようにか細い様子を表しています。
上記のことを踏まえて、今年は、本校の強みをさらに伸ばしていくとともに、しっかりと一年間を見通し、継続した教育活動を推進していきたいと考えています。

私は、お正月というと、子供のころを思い出します。
家の近くにお米屋さんがありました。その店は、年末になるとのし餅を作り販売するのです。私は､お米屋さんの店主からの手伝いの申し出を受け､数日間朝早くから夕方まで手伝いをしました。そこには、私だけでなく多くの地域の方が集まり手伝いをするのです。今考えると地域行事のような感じます。そこではいろいろなことを全身で感じました。蒸篭に入れたもち米を蒸すときに出る勢いのある湯気。兄さんたちが交代で「よいっしょ　よいっしょ」と餅をつく威勢のよいかけ声。出来上がった餅をのし板に入れて形を整えるときの餅の熱さ。手につけた餅とり粉をのし餅に付けるときに舞う粉。お昼時間、醤油を付けてつきたてのお餅を食べたときの味。そして正月、いただいたのし餅を食べる家族の満面の笑顔。…
どの光景も私にとっては掛け替えのないものとして思い出に残っています。また、地域を愛する気持ちや人とのかかわりの大切さも学んだように感じています。

「三尺箸の譬（おし）え」という仏教の説話があります。地獄の住人たちは、三尺（約９０㎝）の長い箸で目の前のごちそうをやっとの思いではさみ、口に運ぼうとしますが、長い箸なので、なかなか口に入りません。目の前のごちそうが食べられないため、困り果てていたそうです。一方、極楽の住人たちの食事風景は異なります。箸でごちそうをつまむと、それを向かいに座っている人の口に運んであげるのです。極楽の住人たちはお腹も満たされ、ニコニコとしているそうです。このお話に出てくる地獄と極楽の住人たちは何が違っていたのでしょうか。それは箸の使い方です。自分のためだけに使おうとする人と、相手のために使おうとする人との違いです。同じ環境にいても、考え方一つで、そこが、極楽にも地獄にもなるという例え話です。これは、物事は心のもちようで、よくも悪くも捉えられることにつながります。

さて、年末にお願いをいたしました学校評価への回答のご協力ありがとうございました。現在、整理分析し検討を重ねています。今月末には、公表いたします。その中で、評価項目１「学校は、教職員が協力して教育活動にあたっている」の保護者の皆様の肯定的な回答（とてもあてはまる・だいたいあてはまる）が、分らないの回答を除くと１００％の結果となりました。
学校経営方針の目指す学校像に「教職員が協働する学校」と示しています。今年も夏雲小の子供たちの笑顔のために、教職員が互いを思い・尊重し合いながら教育活動を推進します。